

2 10大費目指数の動き

各費目の動きを前年比で見ると、光熱・水道は電気代、他の光熱などにより5.7%の上昇、諸雑費は身の回り用品、他の諸雑費などにより4.4%の上昇、家具・家事用品は家事雑貨、家事用消耗品などにより4.0%の上昇、食料は魚介類、肉類などにより3.8%の上昇、教養娯楽は教養娯楽用品、教養娯楽サービスなどにより3.5%の上昇、教育は補習教育、授業料等などにより3.1%の上昇、交通・通信は交通などにより2.9%の上昇、保健医療は医薬品・健康保持用摂取品、保険医療用品・器具などにより2.4%の上昇、被服及び履物はシャツ・セーター下着類、被服関連サービスなどにより2.1%の上昇となった。

一方、住居は家賃などにより0.1%の下落となった。

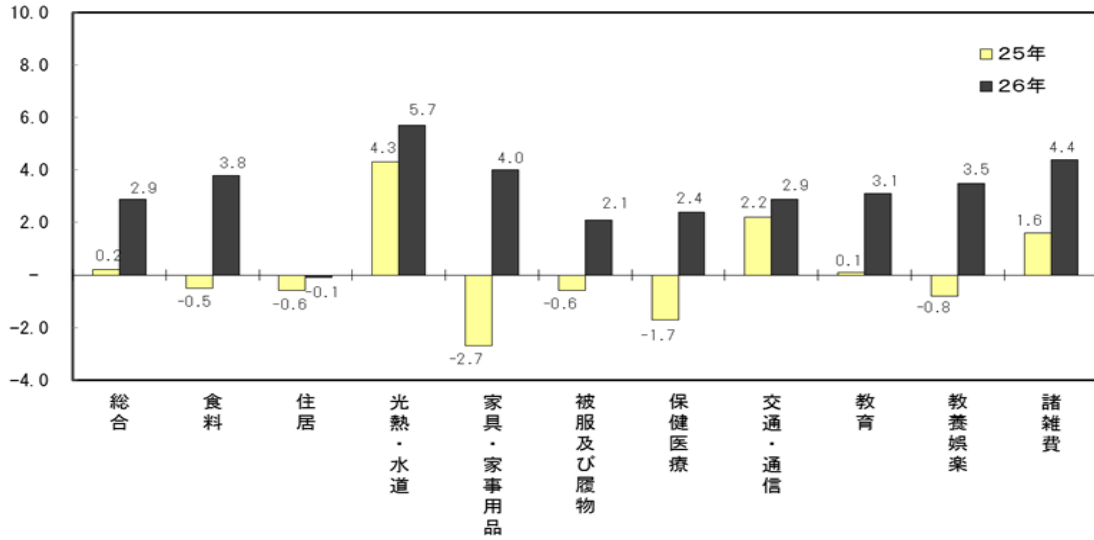
10大費目指数	平成22年=100			
	前年比(%)		寄与度	
	25年	26年	25年	26年
総合	0.2	2.9		
食料	-0.5	3.8	-0.12	0.98
住居	-0.6	-0.1	-0.12	-0.02
光熱・水道	4.3	5.7	0.30	0.41
家具・家事用品	-2.7	4.0	-0.11	0.16
被服及び履物	-0.6	2.1	-0.03	0.09
保健医療	-1.7	2.4	-0.06	0.08
交通・通信	2.2	2.9	0.33	0.43
教育	0.1	3.1	-	0.08
教養娯楽	-0.8	3.5	-0.09	0.40
諸雑費	1.6	4.4	0.11	0.29

※寄与度について

寄与度とは、ある品目又は類の指数の変動が、総合指数の変化率にどの程度寄与したかを示したものであり、計算式は次のとおりである。

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{当期の指数} - \text{前期の指数}) \times \frac{\text{当該項目のウエイト}}{\text{総合のウエイト}}}{\text{前期の総合指数}} \times 100$$

費目別前年比



費目別寄与度

